学園生活

yumesato

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
学園生活

【Ｎコード】
Ｎ０８９３Ｘ

【作者名】
ｙｕｍｅｓａｔｏ

【あらすじ】
小さな学園に通うある少年と彼を取り囲む生徒達の話

いつもの登校

僕が通う学校は、小高い丘の上にある小さな学校だ。
五月もゴールデンウィークを終え、若干五月病を患いつつ、丘を登り続けている。
のんびり歩いていると、背後から駆け足する音が聞こえてきた。

「やぁ、今日も早いね！　並樹（なみき）君！」
「あ、林道さん。おはよう。今日も朝練？」
「そうなんだよー！大会も近いしもう大変！」

無邪気な笑顔で、林道さんは楽しそうに話す。

「じゃあ、私先にいくねー！　また教室で合おう！　それじゃ！」
「うん、練習頑張って」
林道さんは丘を駆け上がってゆき、あっという間にみえなくなってしまった。
（林道さん、まだ一年生だっていうのに、いきなり選手に抜擢されたっていうしすごいよなぁ）
そう思いつつ、歩き続ける。
しばらくすると、校門が見えてくる。
達並学園。僕の通う学校だ。
　門を潜ると、運動場が見える。
陸上部が朝練をしている。そのなかには林道さんもいる。
（うん、今日も一日頑張ろう）
緩い決意をしつつ、校内へと入って行く。
今日もいつも通りの学校生活が幕を開けていった。

教室と気弱な少女

朝7時の教室は、がらんとしていた。
窓際の席に座って、本を読んでいる少女を除いては。

「おはよう、雨宮さん。今日も早いね」
「あっ、……お、おはよう……」
どもりながら、なんとか挨拶をしたあと、また本を読み始める。
彼女の本を読んでいる時の表情は、いつも暗い。
もう、早朝登校を始めて一ヶ月になるが、彼女より早く教室にいたことは一度もない。
彼女はいつも僕が教室にはいると、いつも席について暗い表情をしながら本を読んでいる。本を読んでいるというよりは、ただなにかから逃避するように感じられた。
思えば、彼女が誰かと話したり笑ったりしているのを見たことがない。
林道さんとは対照的だな……そう思った。

「あ、……あの」
「え？」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0893x/

学園生活

2011年10月8日20時38分発行